



看護の原点に戻り 安心と信頼の医療

副病院長／看護部長 **塚越 聖子**
TSUKAGOSHI SEIKO

看護師は患者にとって一番身近な頼りになる存在だ。多職種が連携して患者中心の医療を提供する「チーム医療」でも中心的な役割を担っている。群馬大病院で働く看護師は26部署に約750人。看護部長の塚越聖子副病院長は「看護の原点に戻り、『患者中心の医療・看護』を推進したい」と力を込める。

病院改革を進めている中で、看護部は特にインフォームドコンセント（治療やケアに関する説明と同意）の充実により、患者サービスの向上と意思決定支援の強化を図っています。昨春から「患者サービス向上担当看護師」を総合受付や採液室に配置しました。改革目標の柱は ①ルールを守り、安全・安心の看護を提供する ②患者に寄り添い、信頼回復を目指した患者サービスの向上に努める ③チーム医療を推進し、看護職の役割を果たす一の三つ。問題点を適切に報告する体制や個々の意見を重要視する体制の構築にも努めています。

安全管理体制の強化や医療の質を向上させるには、職員一人一人の意識改革が必須です。病院では、改革の推進に向けた全体説明会や部署訪問説明会を実施しました。さらに看護部では、研修会や委員会などで、改革への取り組みについて繰り返し説明を行いました。その後、改革への意識は高まり、皆がさまざまな活動に取り組んでいます。今年の看護部内の業績報告会では「患者さんに最善の看護を提供したい」という共通した思いを強く感じました。患者さんやご家族の皆さんに「群馬大病院を選んでよかった」と満足していただけるよう、今後も「安心と信頼ある病院づくり」を目指していきます。

……
患者さんの安全と
サービスの向上を
……

1 患者サービス向上担当看護師を配置

安心かつスムーズに受診できるよう、総合案内と採液室に専任の「患者サービス向上担当看護師」を配置。病院ボランティアや医事課職員と連携し、きめ細やかな対応を心掛けている。

2 インフォームドコンセントの充実

医師が患者さんに対して行う説明に看護師が同席し、「医師の説明は難しくないか」「患者さんは治療を納得しているか」などの視点で患者さんの意思決定の支援をしている。

3 朝活、で医療英語勉強会

群馬県に暮らす外国人は約4万人。そこで有志による医療英語勉強会が朝活として毎週火曜日午前7時15分から開かれ、医師、看護師、放射線技師、事務職員ら多職種が参加している。

4 小さな命を守る災害対策

NICU（新生児集中治療室）には保育器の中で呼吸器を付けた赤ちゃんたちが入院中。NICU独自の災害対策マニュアルを作成して緊急時、スムーズに避難できるように備えている。



1 患者サービス向上担当看護師を配置



2 インフォームドコンセントの充実



3 朝活、で医療英語勉強会



4 小さな命を守る災害対策

看護助手を募集しています

(看護補助者)

※お問い合わせ※

☎027-220-8751

看護部管理室
平日9時～17時

※詳しくはホームページで「群馬大学 教職員公募」で検索)

理念「大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る」

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。



群馬大医学部附属病院

前橋市昭和町3-39-15 TEL.027-220-7111(代表)
<http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>